

あいさつ

本年、12月1日付で日本パラスポーツ協会(JPSA)会長に就任致しました、森和之です。

私は、2017年6月に長年勤めた総合商社を退職し同6月にJPSA理事並びにJPC副委員長に就任しました。ビジネスの現場を離れた後は社会貢献に関わりたいと強く思ったことと、前職で勤務していた会社が2014年よりJPSAオフィシャルパートナーとしてパラスポーツ支援を開始していたご縁も重なり、鳥原会長にご相談したことをきっかけとして、この世界に入りました。

元来スポーツは自分でやるのも観るのも大好きで、関係者のアドバイスも戴きながら競技の現場や舞台裏の仕事、国際会議、国内・海外の競技団体関係者との懇談などを通じて一人のパラスポーツファンとなると同時に、自分なりにパラスポーツの持つ意義や社会との関わりについて理解を深めてきました。

これまでの経験を通して、パラスポーツは障がい者の社会参加を促進させ、観る者に競技者のひたむきで躍動する姿が大きな感動を与え、互いの違いを認め合う共生社会への道筋を示す力があると感じています。

この夏、コロナ感染拡大がピークを迎える逆風の中で東京2020パラリンピック競技大会が周到な対策の下開催され、素晴らしい成果を上げることが出来ました。その後の世論調査では、7割の人が“開催して良かった”と答えています。国民の多くから多様性を尊重する共生社会への歩みが理解されたともいえ、この機運こそが大会開催の大きな意義であり、大事なレガシーとして継承すべきと考えます。

但しここで立ち止まっては目標には近づけません。国民の多くにパラスポーツを知って頂いた今、次にパラスポーツの意義に共感して頂き、更にどんな形でも良いので当事者として仲間に加わって頂く流れを作り出し加速させていく事が我々の目指すところであります。

JPSAは今年3月に「2030年ビジョン」を発表しました。パラスポーツの一層の振興を通じて、誰もが個性を発揮して活躍できる活力ある共生社会を実現していくために、パラスポーツの山を高くし(世界トップレベルで活躍するアスリートを育てる)、裾野を広げる(障がいのある人が身近な地域で日常的にスポーツを楽しめる社会にする)両面の取り組みを強力に推進していきます。

微力ではありますが、パラスポーツに初めて携わった時の初心を忘れず、情熱をもって、この任に当たってゆく所存です。引き続きどうぞ皆様方のご支援ご鞭撻をよろしくお願い致します。

公益財団法人日本パラスポーツ協会
会長 森和之